

## 日本ダンス・セラピー協会「ダンスセラピー・リーダー」資格についてのコメント

日本ダンス・セラピー協会会長 葛西俊治 (2025/11/30)

ダンスセラピーに関心をもつ方は、言葉でのカウンセリングにとどまらず、身体のあり方や動きやダンスが果たす大きな効果に気がついていると思います。あるいは、ケガや病気や年齢により「身体として生きている自分」に気がつくことから始まっているのかもしれませんが。また日本では古来より「心身一如 しんしんいちにょ」「心と身体は一つ」とされているように、心と身体の両面に関心を向ける文化的背景も影響しているのかもしれませんが。

2004 年から資格認定が開始された「ダンスセラピー・リーダー」資格は、幸いなことに多くの方に関心を寄せていただいております。資格取得のための研修講座などを通じてダンスセラピーの基本を学び「ダンスセラピー・リーダー」資格を取得される方も増えています。

ところで、「ダンスセラピー・リーダー」という協会認定資格は、「臨床でのセラピスト補助・自身の専門領域でのダンスセラピー的アプローチの活用」という位置づけであり、「アソシエイト・ダンスセラピスト」「ダンスセラピスト」に向かう基礎的な資格です。そして、日本ダンス・セラピー協会としては「ダンスセラピー・リーダー」での学びや経験を踏まえながら、その上の「ダンスセラピスト」という領域にもぜひ気持ちを向けていただければと願っております。

特に、昨年改定された協会の「倫理規定」では、有資格者に限らず一般会員の方も同様に高い倫理性が求められています。これは「セラピー」という対人的な枠組みや関係性についての自覚を深めつつ、周囲の人々に対して支援の輪を拡げていく際に必要となる道筋を照らし出すものといえます。

急速に変化する現代社会において、ダンスセラピーは次に示すように社会に貢献する大きな潜在力を秘めていると私は考えています。ご一読いただいて、日本ダンス・セラピー協会の活動を今後も支えていただければと心から願うものです。

=====

### 「AI への問い掛け」

日本ダンス・セラピー協会では、協会独自のダンスセラピー・リーダー資格者を養成している。今後、そうしたダンスセラピーの基礎的な資格によって、共感的で心の通い合う良好な人間関係を社会的に実現することが望まれる。2024 年度の大会発表内容を踏まえつつ、今後、ダンスセラピー・リーダーのどのような側面や要素を社会的に訴えていくと良いだろうか。

## ダンスセラピー・リーダーの社会的遡及

---

### 日本ダンス・セラピー協会 ダンスセラピー・リーダー資格の社会的訴求戦略：2024 年度大会発表内容からの提言

#### I. エグゼクティブサマリー

本報告は、日本ダンス・セラピー協会が独自に養成する「ダンスセラピー・リーダー」資格の社会的価値を最大化し、共感的で心の通い合う良好な人間関係を社会的に実現するための戦略的な訴求点を提案するものです。ダンスセラピー・リーダー資格は、ダンスセラピーの基礎的な知識と実践能力を証明するものであり<sup>1</sup>、現代社会が直面する人間関係の希薄化や孤立といった課題に対し、具体的な解決策を提供する可能性を秘めています。

主要な訴求点として、ダンスセラピー・リーダーは、身体を通じた非言語的コミュニケーションと共感性の深化を核とする専門家として位置づけられます。2024 年度大会のテーマ「ダンスセラピー〈関わり〉の始まるとき ～リアルにこだわる～」は、身体を通じた本質的な交流の重要性を強調しており<sup>2</sup>、リーダーが安全で受容的な「場」を創造し、高度なファシリテーションスキルによって集団の協調性と個人の自己肯定感を育む能力を持つことを示唆しています。これらの能力は、福祉施設、教育現場、地域コミュニティといった身近な場所での実践を通じて、社会全体の人間関係の質を高める上で極めて重要な役割を担います。

#### II. ダンスセラピー・リーダー資格の社会的役割と目的

##### 資格の概要と基礎的な位置づけ

日本ダンス・セラピー協会が独自に認定する「ダンスセラピー・リーダー」資格は、ダンスセラピーの基礎的な知識と実践技法を習得した者に与えられます<sup>1</sup>。この資格を取得するためには、ダンスセラピー基礎論、実践論、実践技法など、指定された 16 単位以上の科目を修了する必要があります<sup>1</sup>。この体系的な学習プロセスを通じて、リーダーはダンスセラピーの専門性を確立し、実践の基盤を築きます。

また、このリーダー資格は、より高度な専門性を目指す者にとって重要なステップとなります。例えば、「気生根式ダンスセラピスト養成講座後期」の受講条件の一つとして「日本ダンス・セラピー協会の『ダンスセラピー・リーダー』の資格保有者」が挙げられており<sup>3</sup>、ダンスセラピー専門家へのキャリアパスにおける重要な第一歩としての役割も果たしています。

##### 共感的で心の通い合う人間関係実現への貢献

ユーザーの問いかけが示す通り、ダンスセラピー・リーダー資格保有者には、「共感的で心の通い合う良好な人間関係を社会的に実現すること」が強く期待されています。ダンスムーブメントセラピーは、非言語的なコミュニケーションを促進し、共感や理解を深めることで、人間関係の改善や孤立感の解消に寄与するとされています<sup>4</sup>。

この資格は、単にダンスの技術を指導するだけでなく、参加者の内面的な変化を促し、他者との健全な関わりを築くための基盤を提供します。リーダーは、身体を通じた表現と交流を促すことで、言葉だけでは伝えきれない感情や経験を共有し、相互理解を深めることを可能にします。

「基礎的な資格」という表現は、その専門性が限定的であるかのような印象を与えるかもしれませんが、実際の活動事例を見ると、この基礎資格が持つ潜在的な応用範囲の広さが明らかになります。貴船恵子氏や渡辺明日香氏の実践履歴は、児童、青少年、高齢者、障がい児童、精神科患者、発達に課題を持つ方など、非常に多様な対象と現場でダンスセラピーが活用されていることを示しています<sup>3</sup>。さらに、2024年度大会のセッション「ダンスセラピーを身近なところから始める」では、医療機関に限定されない日常的な場所での実践に焦点が当てられていました<sup>2</sup>。これらの事実は、リーダー資格が提供するスキルが、特定の専門分野に閉じるものではなく、多様な対象や現場で応用可能な汎用性の高い「人間関係構築の基礎スキル」であることを示唆しています。つまり、リーダー資格は、専門家への入り口であると同時に、社会のあらゆる接点で共感的な人間関係を築くための「社会実装可能なスキルセット」の証明と捉えることができます。このため、訴求戦略においては、「基礎」という言葉の裏にある「広範な応用可能性」と「社会貢献の多様性」を強調することが重要です。これは、資格が特定の専門分野に限定されるものではなく、より広い社会課題の解決に貢献できる可能性を持つことを示しています。

### III. 2024 年度日本ダンス・セラピー協会大会からの主要な洞察

#### 大会テーマ「ダンスセラピー〈関わり〉の始まるとき ～リアルにこだわる～」の意義

2024 年度日本ダンス・セラピー協会の大会テーマ「ダンスセラピー〈関わり〉の始まるとき ～リアルにこだわる～」は、現代社会における人間関係の根源的な要素である「関わり」に深く焦点を当てています<sup>2</sup>。特に、オンラインコミュニケーションが普及し、対面での交流が減少する傾向にある中で、身体を通じた「リアルな」交流の重要性を再確認する意図が込められています。大会では、人と人が「関わる」上で「安心感」が不可欠であること、そして他者や集団の中で安心して存在するために何が必要かについて議論が交わされました<sup>2</sup>。これは、ダンスセラピーが提供する安全で受容的な場の創造能力と密接に関連しています。

大会テーマ「リアルにこだわる」は、単なる開催形式の言及に留まらず、ダンスセラピーが提供する価値の本質、すなわち「身体を通じた生身の、偽りのない人間関係の構築」への強いメッセージとして解釈できます。これは、デジタル化が進み、時に人間関係が希薄

になりがちな現代社会に対する、ダンスセラピーからの明確な提案です。リーダーは、この「リアルな関わり」を意図的に創出し、参加者が画面越しのコミュニケーションでは得られない深い共感と安心感を体験できる場を提供できる専門家として位置づけられます。したがって、社会的訴求においては、「画面越しのコミュニケーションでは得られない、身体を通じた深い共感と安心感」という、ダンスセラピーの独自性と現代的意義を強調することが効果的です。これは特に、若年層やデジタルネイティブ世代に対して、新たな人間関係構築の価値観を提示する魅力的なメッセージとなるでしょう。

2024 年度大会発表における「共感と人間関係」関連テーマの要約

2024 年度大会の多様な発表内容は、「共感と人間関係」という本報告の核心テーマに深く関連しており、ダンスセラピー・リーダーの社会的訴求の根拠となる具体的な実践例や理論的背景を提供しています。

発表セッション名/タイトル	発表内容の概要	「共感と人間関係」への貢献側面	関連するリーダーのスキル
ストリートダンスとセラピー～対面式コミュニケーションダンスと心身の健康～ <sup>1</sup>	ストリートダンスが参加者間の非言語的コミュニケーションを促進し、感情の解放、ストレス軽減、協調性、自己肯定感、他者肯定感、共感性を高める可能性。	非言語的コミュニケーションの深化、感情の共有、相互理解の促進、共感性の向上。	非言語的メッセージの読み取り、場のデザイン、感情表現の促進。
呼吸と動きの連動により開始時の緊張を和らげる導入法 <sup>2</sup>	参加者の緊張を和らげ、内発的な動きを引き出す導入法。リラックス、安心感、姿勢・気分改善、笑顔の促進。	参加者の安心感醸成、共感的関係性の初期構築、ポジティブな感情状態の誘導。	場のデザイン、参加者の状態把握、共感的反映。
安心してそばに いるということ <sup>2</sup>	人と人が関わる上での安心感の重要性、特に予測可能性と制御可能性が、他者や	安全な関係性の基盤構築、集団内での心理的安	場のデザイン、対人関係スキル、非言語的メッセー

発表セッション 名/タイトル	発表内容の概要	「共感と人間関係」への貢献側面	関連するリーダーのスキル
	集団の中で安心していられるために必要であること。	全性確保、信頼関係の醸成。	ジの読み取り。
5段階ダンスセラピーにおける意識状態の切り替わり <sup>2</sup>	90分間のセッションにおける意識状態の段階的変化。リラックスから活性化への移行、関係性の中での心身の再活性化。	段階的な関係性深化、心身の調和、集団内での一体感の促進。	構造化、場のデザイン、参加者の状態把握。
糸なし糸引き・リードの引き渡し <sup>2</sup>	相互の配慮を促し、関係性を調整する技法。リーダーがリードを渡すことで他者をエンパワーする重要性。	相互尊重、協調性の育成、リーダーシップの共有、関係性の柔軟な調整。	ファシリテーション、対人関係スキル、合意形成。
ダンスセラピーを身近なところから始める <sup>2</sup>	札幌市での認知症高齢者支援、子どもたちのダンス活動、介護施設でのキッズダンスなど、日常的な場でのダンスセラピーの可能性。	地域コミュニティの活性化、身近な場所での人間関係構築、社会貢献の多様化。	場のデザイン、対人関係スキル、地域連携。
地域コミュニティでの活動報告 <sup>5</sup>	初めて会う者同士でも、ダンスでの関わりを通じて笑顔や言葉かけが頻繁に行われ、身体的距離感も縮まる様子。	孤立感の解消、自然な交流の促進、コミュニティの絆の強化。	対人関係スキル、非言語的コミュニケーション促進。

非言語的コミュニケーションと共感性の向上:

ストリートダンスの実践に関する発表では、参加者間の非言語的コミュニケーションが促され、感情の解放やストレス軽減に加え、協調性、自己肯定感、他者肯定感、そして共感性を高める可能性が報告されました<sup>1</sup>。これは、言葉に頼らない深いレベルでの相互理解

を促すダンスセラピーの特性を明確に示しています。また、呼吸と動きの連動による導入法は、特に初参加者の強い緊張感を和らげ、内発的な動きを徐々に引き出すことで、リラックスと安心感をもたらし、姿勢や気分が改善し、硬い表情に笑顔が浮かぶ効果があると述べられています<sup>2</sup>。このような導入法は、共感的な関係性の入り口として極めて重要です。

#### 安心感と関係性の構築:

「安心してそばにいたいということ」の発表では、人と人が「関わる」上で安心感が不可欠であるという認識が示され、他者や集団の中で安心していられるためには、予測可能性と制御可能性が重要であると議論されました<sup>2</sup>。ダンスセラピー・リーダーは、セッションの構成や進行において、参加者が安心して参加できるような「場のデザイン」を意識的に行う能力を持っています<sup>6</sup>。さらに、5段階ダンスセラピーの実技発表では、リラックスから活性化へと意識状態を段階的に切り替え、関係性の中で心身を再活性化させるプロセスが示されました<sup>2</sup>。これは、安全な環境下での段階的な関係性深化を可能にするものです。「糸なし糸引き・リードの引き渡し」の技法は、相互の配慮を通じて関係性を調整し、リーダーがリードを渡すことで他者をエンパワーする重要性を示すものであり<sup>2</sup>、良好な人間関係における権力構造の調整と協調性の促進に直結します。

#### 身近な場所でのダンスセラピー実践と地域コミュニティへの波及:

「ダンスセラピーを身近なところから始める」セッションでは、札幌市における認知症高齢者支援活動や、子どもたちのダンス活動、介護施設でのキッズダンスなど、専門的な医療現場に限定されず、日常的な場でのダンスセラピーの可能性が議論されました<sup>2</sup>。地域コミュニティでのダンス活動の報告では、終始参加者の間で笑顔や言葉かけが頻繁に行われ、初めて会う者同士でも時間を追うごとに徐々に柔らかく、フランクな関わりへと変化し、お互いの身体的距離感も縮まっていく様子が観察されました<sup>5</sup>。これらの事例は、ダンスセラピーが地域社会の絆を強化する強力なツールであることを明確に示しています。

### IV. ダンスセラピー・リーダーが社会に訴求すべき側面と要素

#### 身体的共感と非言語的コミュニケーションの専門性

ダンスセラピー・リーダーは、言葉を超えた深いレベルでの理解と関係構築を促進する専門性を持っています。ダンスセラピーでは、クライアントの言語的・非言語的表現を最大限に受け止め、セラピスト自身の身体でそれを体験する「身体的共感」を通じて、真の共鳴を生み出すことが可能になります<sup>7</sup>。リーダーは、この身体的共感のメカニズムを理解



し、実践することで、言葉だけでは捉えにくい感情や身体の状態を深く感じ取り、クライアントとの間に信頼に基づいた関係性を築きます。

また、非言語的な表現は感情の解放やストレス軽減に大きく寄与し、自己肯定感や他者肯定感を高めることが、ストリートダンスの事例などから示されています<sup>1</sup>。リーダーは、参加者が安全な環境下で自由に身体を動かし、内面を表現することを促すことで、心理的な負担を軽減し、精神的な健康をサポートします。

### **安全で受容的な「場」を創造する能力**

リーダーは、参加者が安心して活動できる予測可能で制御可能な「場」を創造する能力に長けています。2024 年度大会で議論されたように、他者や集団の中で安心していられるためには、予測可能性と制御可能性が重要です<sup>2</sup>。リーダーは、セッションの構成や進行において、参加者が心理的に安全だと感じられるような「場のデザイン」を意識的に行います<sup>6</sup>。例えば、呼吸と動きを連動させる導入法は、初参加者の強い緊張感を和らげ、リラックスを促す効果があり<sup>2</sup>、安心してセッションに参加できる土台を築きます。

さらに、リーダーは多様な背景を持つ人々への適応性を持っています。精神科患者、高齢者、発達に課題を持つ子どもたち、身体障害者など、様々な状態の参加者に対して、個々のニーズに合わせたアプローチで「非日常的な動作」を安全に促し、小さな幸福感や一体感を生み出すことができます<sup>2</sup>。車椅子利用者など、動きに制限がある方々にもイメージを用いた動作を安全に導入し、成功体験を促すことが可能です<sup>2</sup>。

### **人間関係の質を高めるファシリテーションスキル**

ダンスセラピー・リーダーは、人間関係の質を向上させるための高度なファシリテーションスキルを習得しています。リーダーは、参加者の状況を注意深く見極め、傾聴し、言葉にならない非言語メッセージを正確に読み取ることで、参加者の意見や感情を深く引き出します<sup>6</sup>。また、議論や交流が特定の参加者に偏らないよう公平な目配りを行い、どのような意見や表現であっても中立的な姿勢で受け止めることで、誰もが安心して発言・表現できる雰囲気を作り出します<sup>6</sup>。

「糸なし糸引き」のような技法は、相互の配慮を促し、集団内での協調性を育む具体的な例です。リーダーが意図的にリードを他者に渡すことで、他者を尊重し、エンパワーする姿勢を示すことは、個々の自己肯定感を高めると同時に、他者への共感を深めることに繋がります<sup>2</sup>。リーダーは、これらのファシリテーションスキルを通じて、参加者全員が納得し、一体感を感じられるような関係性へと導く案内人としての役割を果たします<sup>10</sup>。

### **地域社会における実践と普及の可能性**

ダンスセラピー・リーダーは、専門的な医療現場だけでなく、地域社会の身近な場所で人々の心の健康を保ち、良好な人間関係を築くための機会を提供できます。福祉施設でのダンスセラピーは、身体活動による健康維持・促進、脳の活性化、認知症改善に効果が期待されるだけでなく、他者との交流を通じて安心感を得られることが報告されています

<sup>9</sup>。教育現場では、身体に障害を持つ子どもたちが全身でダンスを楽しみ、豊かに表現することで、セラピストとの間に深い関わりが生まれる事例があります<sup>8</sup>。地域コミュニティでのダンス活動では、初対面の人々がダンスを通じて自然に交流し、笑顔や言葉が頻繁に交わされるようになり、身体的な距離感も縮まる様子が観察されています<sup>5</sup>。

これらの実践は、「ダンスセラピーを身近なところから始める」という大会のセッション内容とも合致しており<sup>2</sup>、リーダーが地域に根差した活動を通じて、社会全体の人間関係の質向上に貢献できることを示しています。

ダンスセラピー・リーダーの社会的訴求においては、彼らを「病気を治す治療者」としてではなく、「人間関係の課題を予防し、社会全体の情緒的健康を促進する専門家」として位置づけることが重要です。ダンスセラピーは医療現場において「補助的な療法」とされ、単独での効果には慎重な評価が示されることもあります<sup>11</sup>、その一方で、地域コミュニティでの成功事例や「国民の情緒的健康を守る」という視点<sup>2</sup>は、医療以外の日常的な場でのポジティブな影響を強く示唆しています。このため、リーダーは、病気になる前の段階で、人々がより豊かで健康的な社会生活を送るための基盤を築く役割を担う存在として提示されるべきです。広報戦略では、「治療」よりも「予防」「健康増進」「コミュニティビルディング」といったキーワードを前面に出し、ダンスセラピーが提供する価値をより幅広い層にアピールすることで、医療機関との連携を維持しつつも、より大きな社会貢献の枠組みの中で資格の価値を訴求することが可能になります。

## V. 社会的訴求のための戦略的メッセージとコミュニケーションアプローチ

### ターゲット層に応じたメッセージングの方向性

ダンスセラピー・リーダー資格の社会的価値を効果的に伝えるためには、ターゲット層に応じたメッセージングの調整が不可欠です。

- **一般市民・地域コミュニティ向け：**「身体を動かすことで、言葉を越えたつながりを見つけ、心豊かな人間関係を育む」というシンプルでポジティブなメッセージを軸とします。具体的な成功事例、例えば「ここに来ると自由になれる」「このままの自分で良いんですね」といった参加者の声<sup>2</sup>や、地域コミュニティで初対面の人々が笑顔で交流し、身体的距離が縮まる様子<sup>5</sup>など、共感と安心感を喚起する体験談を多く紹介します。身近な場所での実践例（例：札幌市での認知症高齢者支援、介護施設でのキッズダンス）<sup>2</sup>を強調し、ダンスセラピーが誰にでも開かれたものであることを伝えます。
- **教育・福祉・企業関係者向け：**「非言語コミュニケーション能力の向上」「安全な場でのチームビルディング」「多様な背景を持つ人々との共生促進」といった、具体的な課題解決に資する側面を強調します。リーダーが持つファシリテーションスキル（傾聴、非言語メッセージの読み取り、公平な関わり）の専門性<sup>6</sup>や、身体



的共感による深い理解のメカニズム<sup>7</sup>を理論的根拠として提示し、組織や集団の生産性向上、従業員のウェルビーイング向上に貢献できる可能性を訴えます。

- **医療・研究関係者向け:** 臨床事例の報告<sup>14</sup>や、精神・身体的効果に関する既存の研究動向（例：パーキンソン病や慢性心不全患者のQOL向上）<sup>12</sup>を提示します。その際、現在の研究における限界（例：サンプル数、補助的役割）も誠実に伝え<sup>12</sup>、今後の研究の進展に期待を寄せる姿勢を示します。協会が倫理規定を改訂し、専門職としての信頼性と責任感を重視している点<sup>2</sup>もアピールし、医療連携における安心材料とします。

### エビデンスに基づく効果の強調と事例の活用

ダンスセラピーの効果を社会に訴求する上で、エビデンスの提示は不可欠です。定性的な事例と定量的な研究成果の両面からアプローチすることが重要です。

- **定性的な事例の重要性:** 「ここに来ると自由になれる」「このままの自分で良いんですね」といった参加者の率直な声<sup>2</sup>や、地域コミュニティでの活動で参加者間に笑顔や言葉かけが頻繁に行われ、身体的距離感が縮まる様子<sup>5</sup>など、具体的な体験談や観察結果を積極的に発信します。これらは、数値データだけでは伝えきれないダンスセラピーの「癒やし」や「つながり」の力を、人々の心に響く形で伝える上で非常に有効です。
- **定量的な研究成果の提示:** パーキンソン病患者の運動能力やQOL、慢性心不全患者のQOLスコアの有意な改善など、既存の学術研究で示されている効果<sup>12</sup>を、その限界（サンプル数、補助的役割など）も踏まえつつ、誠実に提示します。医学的な根拠はまだ発展途上であるという現状も踏まえ<sup>11</sup>、今後の研究の進展に期待を寄せる姿勢も示すことで、学術的な厳密性と信頼性を確保します。

### ダンスセラピー・リーダーの主要な能力と社会的貢献の対応表

ダンスセラピー・リーダーは、単に特定の患者やクライアントを対象とするだけでなく、より広範な社会の構成員（子どもから高齢者、健常者から障害者まで）に対して、身体と心の両面からウェルビーイングを育む役割を担う存在として位置づけられます。彼らは、ダンスという普遍的な表現手段を通じて、個人の内面的な豊かさと、他者との調和的な関係性を同時に促進します。この対応表は、リーダー資格が具体的にどのようなスキルを提供し、それが社会が求める「共感的で心の通い合う人間関係」にどう貢献するのかを、簡潔かつ視覚的に示すことで、メッセージの明確性と説得力を高めます。

リーダーの主要な能力/スキル	具体的な行動/実践例	社会的貢献/効果
身体的共感の専門性 <sup>7</sup>	クライアントの動きのミラーリング、非言語的表現の受容と応答。	言葉を越えた深い相互理解、感情の共鳴、安心感の醸成。
非言語的コミュニケーション促進能力 <sup>4</sup>	ストリートダンス、呼吸と動きの連動など、身体を通じた表現の誘導。	感情の解放、ストレス軽減、自己肯定感・他者肯定感の向上、共感性の深化。
安全な「場」をデザインする能力 <sup>6</sup>	予測可能性と制御可能性を意識したセッション構成、導入時の緊張緩和。	参加者の心理的安全性確保、安心して自己表現できる環境の提供。
高度なファシリテーションスキル <sup>6</sup>	傾聴、非言語メッセージの読み取り、公平な目配り、適切な質問力。	集団内の意見活性化、協調性育成、合意形成、関係性の調整。
関係性調整能力 <sup>2</sup>	「糸なし糸引き・リードの引き渡し」など、相互配慮を促す技法。	相互尊重の促進、他者エンパワーメント、健全な人間関係の構築。
多様な対象への適応性 <sup>3</sup>	児童、高齢者、障がい者、精神科患者など、個々の状態に合わせたアプローチ。	幅広い層へのウェルビーイング支援、社会包摂の推進。
地域コミュニティへの実装力 <sup>2</sup>	福祉施設、教育現場、地域活動でのダンスセラピー実践。	孤立感の解消、地域コミュニティの活性化、社会の絆の強化。

この表は、「ダンスセラピー・リーダーは、あなたの身近な場所で、心と身体の健康、そして人とのつながりを育む専門家です」といったメッセージを打ち出すことで、資格の認知度と魅力を高め、より多くの人々がその恩恵を受けられるように促すことができます。これは、資格の社会的な「必要性」と「価値」を最大化する視点を提供します。

## VI. 結論と今後の提言

## ダンスセラピー・リーダー資格の社会的価値の再確認

日本ダンス・セラピー協会が養成するダンスセラピー・リーダー資格は、現代社会が求める「共感的で心の通い合う良好な人間関係」を実現するための強力な専門性を有しています。リーダーは、身体的共感と非言語的コミュニケーションを核とした独自のスキルセットを通じて、言葉だけでは到達し得ない深いレベルでの相互理解と感情の交流を促進します。

2024 年度大会で強調された「リアルな関わり」の重視は、デジタル化が進む現代において、身体を通じた本質的な人間関係の価値を再認識させるものです。リーダーは、安全で受容的な「場」を創造し、高度なファシリテーションスキルを駆使することで、個人の内面的な成長と、集団および地域社会における協調性と一体感を育むことができます。福祉施設、教育現場、地域コミュニティといった多様な場所での実践事例は、リーダーが専門的な医療現場に限定されず、より身近な場所で人々が心の健康を保ち、良好な人間関係を築くための機会を提供できることを明確に示しています。彼らは単なるダンスの指導者ではなく、「人間関係の質を高め、社会全体のウェルビーイングを育むファシリテーター」として、その社会的価値は極めて高いと言えます。

## 継続的な研究と広報活動の重要性

ダンスセラピーの効果に関する医科学的エビデンスはまだ発展途上にあり<sup>11</sup>、その社会的信頼性と専門的権威を一層高めるためには、実践例の積み重ねと並行して、継続的な研究とデータ収集が不可欠です。客観的なデータに基づいた効果の検証を進めることで、より広範な社会層への普及と認知に繋がります。

本報告で提案した訴求点を踏まえ、ターゲット層に合わせた戦略的な広報活動を展開することは、ダンスセラピー・リーダー資格の社会的認知度と価値を向上させる上で極めて重要です。資格が提供する具体的なスキルと、それが社会的な人間関係改善にどう繋がるかを明確に伝えることで、潜在的なリーダーの育成と、リーダーの活用を検討する組織の増加を促すことができます。

また、協会が倫理規定を遵守し<sup>2</sup>、専門職としての高い倫理観を社会に示し続けることは、長期的な信頼構築に繋がります。これらの取り組みを通じて、日本ダンス・セラピー協会は、ダンスセラピー・リーダーが社会の様々な場面で活躍し、共感的で心の通い合う社会の実現に貢献できるよう、その基盤を強化していくべきです。